

津久舞は  
雨乞いの神事

津久舞之初は享和二年夏  
昭和八年閏 (百三十三年前)  
当時非常なる旱魃ニ農民困ル  
高野山大火、大坂天王寺焼失  
江戸大火、住吉大火は一か流行  
雨乞祈願、為ノ事所及山崎村ニ  
具式ヲ行、三代、淡路、窪沼郎登ル

愛宕神社年暦  
野田市興風図書館所蔵

津久舞の初めは  
享和二年夏(一八〇二年)

# 野

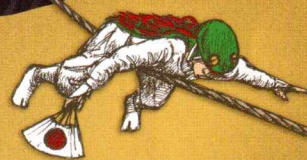
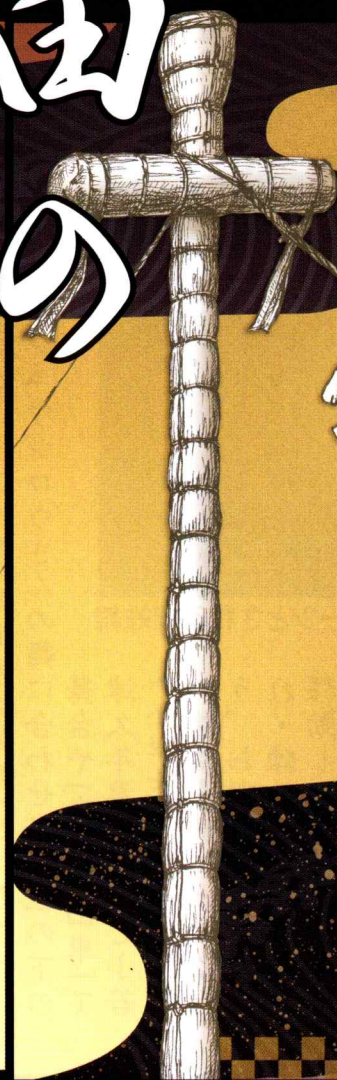
# 田



千葉県無形民俗文化財  
国選択無形民俗文化財  
「千葉文化遺産」選定

# 津久舞

# の



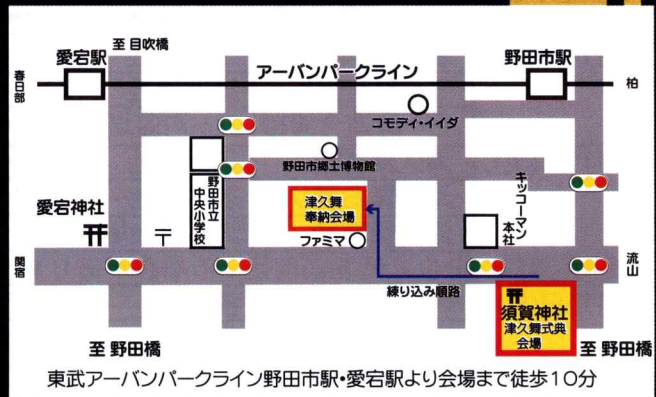
野田の夏祭り  
と

# 津久舞

日時：令和5年7月15日(土)  
式典：午後7時 下町須賀神社  
奉納：午後7時30分頃

状況よりの時間の変更有り早めにご来場ください

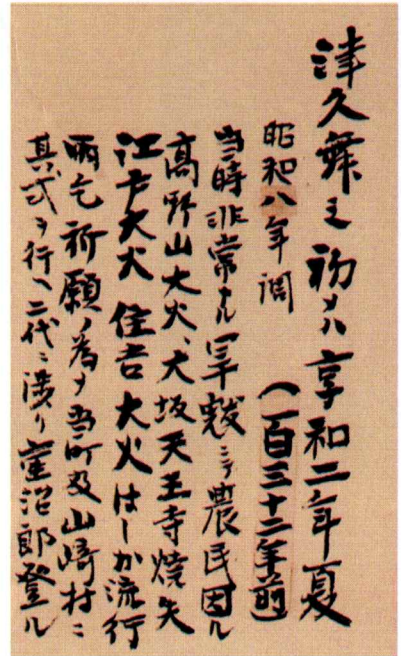
会場：キッコーマン駐車場



東武アーバンパークライン野田市駅・愛宕駅より会場まで徒歩10分

# 野田の津久舞(つくまい)

千葉県指定無形民俗文化財・国選択無形文化財・ちばの資産150選



## 津久舞の初めは享和二年夏

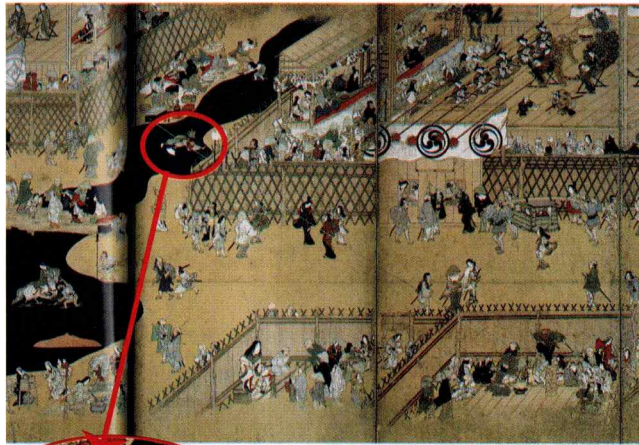
昭和八年調べ (百三十二年前)  
 当時非常なる旱魃にて農民困る  
 高野山大火、大坂天王寺焼失  
 江戸大火、住吉大火、はしか流行  
 雨乞祈願のため当町及び山崎村にて  
 この式を行い、二代に渡り重治郎登る  
 (次)

## 蜘蛛舞から津久舞へ

寛永期から寛文期製作(一六五〇年  
 ころ)と推定される  
 四条河原遊楽図屏風(ボストン美  
 術館所蔵)に津久舞そっくりの衣  
 装と軽業が描かれている。  
 当時祭礼などで行われていた蜘蛛  
 舞が津久舞の源流ではないかとい  
 われている。

## 起源と現在

土地の古文書によれば、享和二年  
 (一八〇二年)夏の旱魃のときに  
 雨乞い祈願のために行ったのが始  
 まりとされる。



津久舞のルーツとされる蜘蛛舞



面・扇・たっつけ袴  
 津久舞装備と同じ



底抜け山車

当時須賀神社は愛宕神社と併設されていたようだが、現在の地に須賀神社(下町地区)が移築された後、文政八年(一八二五年)須賀神社の祭礼に津久舞として奉納されるようになったと伝承。  
 現在の津久舞  
 毎年、七月中旬に行われる須賀神社の祭礼「三ヶ町夏祭り」の中で、津久舞が奉納される。  
 津久舞奉納までの一日の流れは、三ヶ町(上町・仲町・下町)への「底抜け山車」によるお触れ、当番町内で行われる式典、つく舞会場までのお練り、そして津久舞の披露となる。  
 津久舞は、津久柱(高さ十四、五m)の上で蛙の面をつけたジウジロウさんと呼ばれる舞男が四方に破魔矢を射たのち龍をからかい怒らせて雨を降らせるという物語を舞う。  
 柱の中ほどでは反りを見せたり、柱上では、寝転がったり、逆立ちを行う。  
 この命がけの演技を須賀神社に奉納し雨を与えてもらうというこれを「野田の津久舞」と称します  
 このジウジロウさんの舞に合わせて、柱の下の舞台や「底抜け山車」で津久年番の若衆と小若(小学生)が津久囃子の演奏をテンポ良く行う。お囃子連が、お触れ・練り込み・会場と移動しながらの演奏に使用する「底抜け山車」津久舞にはなくてはならない道具

## 令和5年度三ヶ町夏祭り日程表

7月14日(金)	渡御式典	須賀神社	10:00	
	三ヶ町宮出し	須賀神社	10:30	愛宕神社までの宮出し渡御
	三ヶ町連合渡御	三ヶ町区域	17:00	愛宕神社出発 上町・仲町
7月15日(土)	津久舞式典	須賀神社	19:00	
	津久舞お練り	須賀神社~	19:15	須賀神社から津久舞会場
	津久舞奉納	津久舞会場	19:30	時間は状況により変更
※津久舞は30分位、時間が前後する場合があります早目のご来場をお願いします				
7月16日(日)	町内祭礼	各町内	各町内祭礼関係者に確認ください	
	還御式典	愛宕神社	17:00	
	三ヶ町連合還御	三ヶ町区域	17:30~21:30迄	須賀神社宮入

<https://www.tukumai.com/>

mail:info@tukumai.com  
 お問い合わせはメールにて

野田津久舞保存会  
 代表者 会長 石塚 秀一  
 事務局 野田市中野台168-1  
 野田商工会議所内

神輿年番：上町区 獅子年番：仲町区 津久年番：下町区  
 参考文献：野田の夏祭りと津久舞 野田郷土博物館刊行

三ヶ町夏祭り実行委員会